



校長 坂本 晋

みたけが原便り

第21回 「不条理を生きる」

(3月19日(金) 修了式校長式辞より)

今年度も、大勢の諸君への賞状伝達で締めくくることができるのをうれしく思います。特に素晴らしいと思うのは、皆勤を通じた人たちです。1年間心身ともに健康に過ごせたという証ですが、これは、自己管理が徹底していたからこそ。このウィズコロナの時代にあっては是非とも身につけたい「生きる力」です。

3月13日には1期生の卒業式がありました。残念ながら皆さんは出席して見送ることができませんでしたが、先輩方は全員居住まいもキリリと晴れやかな良い顔で式に臨んでいました。表情には、中央附中のパイオニアとしての誇りと「立派にやり遂げた感」が溢れていました。1年後、2年後あとに続くのは皆さんです。負けてはられませんね。

さて、皆さんにとって令和2年度とはどんな1年だったでしょうか。

共通するのはコロナウィルスに翻弄された不自由で息苦しい1年だったという思いではないでしょうか。急に学校が休みになった。友だちと自由にお喋りをしたり一緒に遊べない。家族と外食もできないし、里帰りにも旅行にも行けない。あれもダメこれもしてはイケない。

ただ、皆さんには家に帰れば皆さんを迎えてくれる家族がいます。学校にも登校できたし友だちにも会えました。ところが、ひとり暮らしの人が通勤からテレワークに変わったり、巣ごもり生活を強いられたり、それならまだいいのですが、中には仕事を解雇されたり勤め先が休業になって収入が激減してしまった人もいます。

訳の分からないままに納得できないものを押しつけられて、身も心も押しつぶされそうな

閉塞感の中で暮らす人たちがいます。彼らの孤立感の深さを考えると胸がふたがれる思いがします。

この、これまで疑いもしなかった価値観や平穏な日常が大きく揺さぶられ、いやが応にも自分の生き方や世の中の在り方を見つめ直すずにいられなかった出来事は、10年前にもありました。

知っていますね。未曾有の災害となった東日本大震災・津波です。あの時、皆さんは3歳か4歳ですね。正直よく覚えていないという人が大半だと思いますが、町が津波に呑まれる映像は目にしたことがあると思います。関連死を含め2万2千人以上が犠牲となり、いまだに4万人以上が避難生活を余儀なくされています。

あの時、わたしが最も痛切に感じたことは、生きている限り人間の力ではどうしようもないことがある。そして命は不意に絶たれるのだ、ということでした。

10年前の3月11日午後2時46分、強い地震を感じました。早い所ではその30分後に東日本の太平洋岸を巨大津波が襲いました。

その時もたらされた悲劇は枚挙にいとまがありません。追いかける津波から手をつないで一緒に逃げた親子の手が離れ、母親ひとりが生き残り高校生の娘さんは行方不明に、ということがありました。屋上に避難した人たちを津波が襲い、固いフェンスに引っかかった人は助かったけれど、ネットにつかまった隣の人はネットごと流されて消えてしまったということがありました。目の不自由なお年寄りを助けようとした女性介護士が波に呑まれ、お年寄りだけがかろうじて救助されたということがありました。

わたしは思うんです。こうした生死を分ける運命の違いには、一体どんな理由があるんだろうか？（芥川龍之介の「蜘蛛の糸」のカンダタが体現する分かりやすい因果関係は存在するのでしょうか？）現実には、運命を分ける理由は何もないんですね。これが、人間が生きることが自ずと内包している「不条理」というものの姿です。

しかしだからこそ、いつ予告も理由もなく断ち切られるかもしれない人生だからこそ、私たちは今日という1日この瞬間をひたむきに懸命に生きていかなければなりません。その時に悔いを残したくないと願うのは私だけではないはずで

す。われわれはあらゆることから学ばなければなりません。中学生の皆さんなら尚更です。東日本大震災とコロナ禍が示唆するのは、「失ったことから学びなさい」ということです。津波の後、特に若者の間には「何か世の中のために役に立ちたい」と思う人が増えました。そして多くの方が復興のためのボランティアに参加しました。津波は人と人との絆の大切さに気づかせてくれたんです。それはこのコロナ禍も同様です。

わたしは、寓話（たとえ話）として新型コロナウイルスを語るならば、「お主なかなかやるなあ」という思いがあります。なぜかという、このウィルスは元の一つの野生動物から別の生き物へと常に宿主を替えて移り住み、しかも変異を繰り返すことでバージョンアップ、外界に適應してしたたかに生き延びていくからです。「敵ながらあっぱれ」ですね。

私たちが簡単に降参するわけにはいきません。人間ももっと国境を越え、異なる文化や考え方を持つ相手と出会い、ぶつかり合い響き合いながら変わっていく生き方を身につけねばなりません。学んで成長することでこの手強い相手と対等に組んでいく。今すぐねじ伏せることはできなくても「共生」していくことはできるはずで

す。

これまで以上にお互い同士の心と心をすりあわせて自分を磨く。切磋琢磨することでウィズコロナの時代を乗り越えていきましょう。

